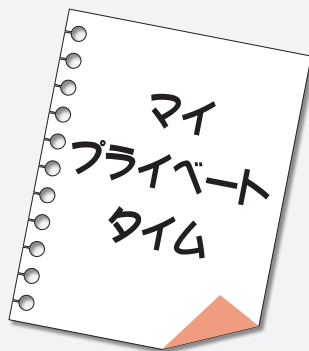


# 「ここにはいつも富士がある」

ふじよしだ 富士吉田市長(山梨県) ほりうち 堀内 茂 いげる

Shigeru Horiuchi



## 富士山と私

私は、東京の下町・築地に生まれ育ちました。夜空に大輪の花を咲かせながら川面へ散っていく隅田川の花火大会、川岸の小道を人力車に乗って料亭の裏木戸へ向かう芸者衆など、下町の江戸情緒溢れる中で過ごしました。富士山との出会いは、子どもの頃、土曜日の夜に頑固親父に手を引かれて通った近所の銭湯でした。当時はこの銭湯にも申し合わせたように富士山が浴槽の大きな壁に描かれており、その威容を誇る美しい姿には子どもながらに心を惹かれました。その後、私が富士山の魅力に引き込まれていったのは、妻の実家がある



富士吉田市街地と富士山

る富士吉田市へ移り住んだのがきっかけでした。居を構えた富士吉田市は、目の前に雄大な富士山がそびえ立ち、空気は澄んでいて、晴天の夜には満点の星空を仰ぐことができる豊かな自然に恵まれた高原のまちでした。毎朝、目の前に広がる雄大な景色に圧倒され、私は富士山に魅了されていきました。

私が育った下町は、現在、人々の手によって作られた空間として、安全性、利便性、機能が大きく向上し、造形美も見事なまでに計算され洗練された街へと生まれ変わっております。しかし、そこに住み始めたとは思えないのです。なぜなら、雄大な富士の裾野すそ野に広がるこのまちでの暮らしは、自然の美しさ・恵み・やすらぎで私の気持ちが満たされているからです。暮らすには下町の方が便利かもしれませんが、田舎ならではの人と人との絆きずな、そのつながりの中から生まれる人々を思う気持ち、そんな人間にとって大切なものがたくさん詰まっている場所に私は住んでいます。

## 富士登山

雄大な、気高さ、美しさを併せ持つ富士山は、古来より、数多くの歌人や浮世絵師などの芸術家を魅了し、創作活動の題材となってきました。日本最古の歌集である「万葉集」をはじめ、「竹取物語」「古今和歌集」、



7合目の岩場を登る筆者

さらには、「富嶽三十六景」「東海道五十三次」などの芸術作品に登場し、日本国の象徴として今日まで私たちを魅了しています。また、江戸時代には富士講が最盛期を迎え、信仰の山として現在に至るまで崇められていきます。そのような他に類をみない、世界の宝である富士山に私は毎年登っています。自分の体力や健康状態を確認することも目的の一つですが、主な目的は、幾多の困難を乗り越えて先人たちが遺してくれた豊かな自然環境を全身で感じる事です。吉田口登山道から登る富士山は麓ふもとから見る美しい景色とは異なり、5合目から頂上に向かうに従って、木々や草花が徐々に少なくなり、過酷な環境へと姿を変えて



8合目救護所での医師と筆者

て頂上にたどり着きます。頂上では、多くの登山者が携帯電話やカメラを片手にご来光を待ちわびています。東の空から朝日が昇りはじめると歓声が始まり、あちらこちらからシャッター音が聞こえてきます。何度見ても山頂からのご来光は神々しく心が震えます。

いきます。6合目付近から足元は砂礫混じりへと変わり、7合目あたりでは岩場に変わり始めます。このあたりから、息も上がってきて疲れを感じるようになります。登山道の開けた場所や山小屋で休憩しながら景色を眺めていると、標高3000mでの冷風が火照った体に心地が良く感じられます。麓の景色を覗き込むと、晴天時には裾野に広がる富士山の影を確認することができます。富士山の大きさを再認識します。宿泊する山小屋に到着すると、頂上から眺めるご来光(日の出)を楽しみに早めの休息をとります。午前2時頃になると起床し、暗闇の中を登り始めます。ヘッドライトを頼りに登山道を確認しながら2時間ほどかけて

## 私を癒やしてくれる場所

5月中旬から富士登山への準備として行っているのが、自宅から北口本宮富士浅間神社までの散歩です。毎朝、1kmほどの道のりをゆったりと15分ほどかけて歩きます。この神社は、世界文化遺産「富士山」の構成資産の一つであり、富士登山への玄関口でもあります。神社に到着すると、左右にスギやヒノキの生い茂る約300mの参道を歩いて拜殿を目指します。朝の風で木の葉が揺れる音を聞き、森の香りや参道並木からこぼれる朝日に清々しさを感じながら、身も心もリラックスしていくのがわかります。参道を進んでいくと、木造鳥居では日本最大級を誇る高さ約18mの大鳥居が荘厳な佇まいで拜殿へと迎え入れてくれます。大鳥居をくぐると、拜殿が目前にせまり凜と張り詰めた空気が私を包み、自然と背筋が伸びていくのがわかります。手水舎で身を清め、穏やかな一日の始まりに感謝し、自分や家族の健康を祈ります。神社での参拝を終えると、多忙な一日の始まりを実感しながら帰路に着きます。

公務の無い休日には、ミシユラン・グリーンガイドなどで紹介され、最近、世界的に有名になった新倉山浅間公園に行き、心身のリフレッシュ



新倉山浅間公園からの眺望と筆者

を図っています。展望デッキから望む本市の景色は素晴らしく、正面に富士山、右側に忠霊塔(五重塔)、そして、眼下に本市のまち並みを望むことができます。春には桜、夏には青葉、秋には紅葉、冬には雪化粧がまちを彩り、四季折々の景色を楽しむことができます。「ここにはいつも富士がある」これは、富士吉田市民愛唱歌の一節です。私は、いつもこの場所で雄大な富士を仰ぎながら、このまちの発展に全力で取り組む決意を新たにしています。